

開発協力の枠組みとゴール

第4期中期計画 (2017~2021年度)

重点領域や
アプローチを
明確化

2017年度より開始した第4期中期計画では、開発協力大綱を基に4つの開発課題（インフラ・経済成長、人間開発、平和構築、地球規模課題）、6つの地域、多様な主体との連携や国際的な議論への貢献などに関する計画を設定しています。これらに加え、事業を支える組織・業務基盤の強化や効率的な運営、安全対策や内部統制の強化などについても具体的に示しています。

これらの計画を達成するための取り組みを通じ、JICAは今後も開発課題の解決やわが国の国益への貢献といった国内外から期待されている役割を果たしていきます。

第4期中期計画の枠組み

開発協力を通じた開発課題および地球規模課題の解決、わが国の国益への貢献

平和と安全と繁栄、安定性、透明性
および予見可能性が高い国際環境の
実現

国際社会におけるわが国への信頼感
の向上、開発途上地域との関係強化、
国際社会の秩序と規範形成への貢献

開発途上地域との関係性の強化を通
じたわが国経済、社会の活性化への
貢献

重点領域

- 国の発展を担う人材の育成
- 開発の担い手との連携強化とわが国地域活性化への貢献
- 国際的公約実現への貢献および国際社会でのリーダーシップの発揮
- 安全対策の強化

重視するアプローチ

- 信頼関係の構築に向けたオーナーシップとパートナーシップを重視した協力の推進
- 人間の安全保障を踏まえた人間中心のアプローチ
- 事業の戦略性の強化と業務の質の向上
- 統一性・一貫性のある情報発信

具体的な取り組み

重点課題への取り組み

- 「質の高い成長」とそれを通じた貧困撲滅（開発途上地域の経済成長の基礎および原動力の確保、人々の基礎的生活を支える人間中心の開発の推進）
- 開発の基盤としての普遍的価値の共有、平和で安全な社会の構築
- 地球規模課題への取り組みを通じた持続可能で強靱な国際社会の構築

連携の強化

- 民間企業等
- NGO／市民社会組織
- ボランティア
- 大学・研究機関 ● 地方自治体
- 開発教育、理解促進等

事業実施基盤の強化

- 広報 ● 知的基盤の強化
- 事業評価 ● 災害援助等協力
- 開発協力人材の育成促進・確保

地域の重点取り組み

- 東南アジア・大洋州
- 南アジア
- 東・中央アジアおよびコーカサス
- 中南米・カリブ
- アフリカ
- 中東・欧州

安全対策の強化

その他重要事項

- 効果的・効率的な開発協力の推進
- 国際的な議論への積極的貢献および国際機関・他ドナー等との連携推進
- 開発協力の適正性の確保
- 内部統制の強化等
- 財務内容の改善
- 人事、施設・設備に関する計画等

国の重要方針と政策

開発協力大綱
関連政策、各種政府公約

開発協力を取り巻く国際的な枠組み

持続可能な開発目標（SDGs）
パリ協定（気候変動）

日本および国際社会が大きく変化するなか、JICAに求められる役割も刻々と変化します。JICAは法律に則り、5年間のサイクルで定める中期計画に基づき業務運営を行っています。2017年度より第4期中期計画(2017~2021年度)を開始しました。

国際社会では、2015年9月に「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が策定され、「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」が世界共通の目標として合意されました。JICAはこの達成に貢献していくため、SDGs達成に向けたJICAの協力の3本の柱を定め、国際協力を行っていきます。

持続可能な 開発目標 (SDGs)

2030年に
向けた
世界共通の
目標

SDGsは、2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、MDGsで残された課題や、この15年間で顕在化してきた都市、気候変動、格差などの課題の解決を目指すものです。SDGsの理念は「誰一人取り残さない」というスローガンに表されています。すべての人々が開発の恩恵を享受するためには、取り残されてしまう人々に特に配慮することが必要です。

このような社会を実現するためには、国際機関や各国政府だけでなく、地方自治体、民間企業や市民社会など、あらゆるパートナーが連携することが求められています。

SDGs達成に向けたJICAの協力の3本の柱

JICAは国際協力を通じてSDGsに貢献していくために、その方針を「SDGs達成への貢献に向けて：JICAの取り組み」として、2016年9月に策定しました。詳しくは、JICAウェブサイト「SDGsの取り組み」[▶ <https://www.jica.go.jp/aboutoda/sdgs/>]をご覧ください。

1 SDGsは「誰一人取り残さない」世界を目指し、人間の安全保障の実現を加速する

JICAは、国際社会の平和、安定、繁栄を目指し、「人間の安全保障」と「質の高い成長」を実現します。SDGsは、この理念を加速、推進するものであり、JICAはリーダーシップを発揮しゴールの達成に積極的に取り組みます。



2 自身の強みのある10のゴールをリードする

JICAはSDGsすべてのゴールに統合的に取り組みますが、日本の知見や技術、開発協力の経験を生かすことのできる10のゴール(ゴール2、3、4、6、7、8、9、11、13、15)について中心的役割を果たします。

3 パートナーシップを強化する

JICAは、SDGs達成を加速するため、国内の知見の活用、国内外のパートナーとの連携、イノベーションを図り、SDGsの達成に向けてインパクトを確保します。